

報 告

韓国鉄鋼協会セミナーに参加して

田 畑 新 太 郎*

私は韓国鉄鋼協会発足2周年を記念した鉄鋼セミナーに講師として招請を受け、本年7月13日ソウルの商工会議所で開催されたセミナーに参加した。

セミナーの主題は、鉄鋼工業育成総合対策という大きな題目で、李副会長の基調講演を含め5つの論文が提出された。主題及び講師は

- イ. 基調講演
韓国鉄鋼協会副会長 李 洪鍾
- ロ. 電気炉操業 生産性向長
仁川製鉄(株)技術常務理事 金 鎮亨
- ハ. 特殊鋼 需要 育成方案
K I S T 鉄鋼材料室長 朴 現鎔 博士
- ニ. 鉄鋼業 当面課題
日本鉄鋼協会専務理事 田畑新太郎
- ホ. 鉄鋼工業 育成戦略
韓国鉄鋼協会常務理事 崔 正烈



討論参加者は鉄鋼業の経営責任者、工場の技術者及び大学教授で、日本でいえば、鉄鋼連盟、鉄鋼協会が二つ合同して開催したセミナーと思えばよい。

韓国鉄鋼協会は昨年も発足1周年を記念しセミナーを開催し、日本から講師を迎え非常に盛会であったと聞いているが、今回は、上層部の責任者が一同に会したということで、盛り上りは期待以上のようであった。

私の講演は国際協調の必要性、特に先進工業国との調和を強調し、かつ鉄鋼業の高度化や資源問題に触れ最後に韓国のごとき単一優秀民族による鉄鋼業の優位性を結びとして説いた。翌朝の新聞に大きく取材されており、これを読んだ人達から感謝された。

最後の常務理事 崔氏の講演内容は世界各国の鉄鋼業と韓国鉄鋼業を各方面から比較検討したもので、その資料の充実している点で、参加者一同を感動させるものであった。1981年には浦項製鉄所は850万トンに達し、韓国の鉄鋼生産は1300万トンとなる。講演の最後に第二国営製鉄の構想を進める段階にきていることを述べ、注目を浴びた。

私はセミナー終了後、李副会長の御案内で、浦項にある国営製鉄、仁川にある現代造船を視察する機会を得た。この国営製鉄では朴社長と親しく、国際的、諸題を懇談することができて、私としては訪韓の最大目的を達したような気がした。



各地を訪門する間、新しい韓国の風物に触れたが、農林業をはじめ各種の工業が、すさまじい勢いで発展をしつつある姿はまことに驚異的で、胸のひきしまる思いをした。

終りに、鉄鋼業を通じ、日韓両国の親善がますます高まらんことを願い報告をする。

* 日本鉄鋼協会専務理事